

ねぎチェーンポット育苗導入による経営改善の実践

【七飯町高見地区（10戸）】 （地域第2係）

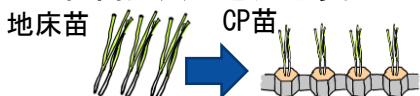
令和3～4年度

課題の背景

ねぎ作付面積の増加 規模拡大 ➡ 求められた 省力化 ➡ チェーンポット (CP) 育苗導入による 定植作業省力化の動きに

問題

育苗方法の急速な変化



- ・育苗技術が未習得
- ・作業体系の変化
- ・地床育苗と比べ生育が遅い

課題の設定

「ねぎチェーンポット育苗導入による経営改善の実践」

R3

- ・作業計画の組み立て支援
- ・栽培技術習得の支援
- ・初期生育促進技術の検討

R4

- ・育苗技術の習得

活動内容

R3

R4

作業計画の組み立て支援



CP育苗導入にあたり 作業計画組み立てを 支援

栽培技術習得の支援



栽培技術が向上したが 育苗技術に課題が残る

育苗中の かん水管理と ハエ類防除が 重要

育苗技術の習得

健苗目標の設定

- ・ 齊一性
- ・ 苗立率
- ・ 太さ
- ・ 目標達成に向けた 技術支援を実施

かん水技術習得支援

- ・ 適期かん水のため 水分センサーを活用

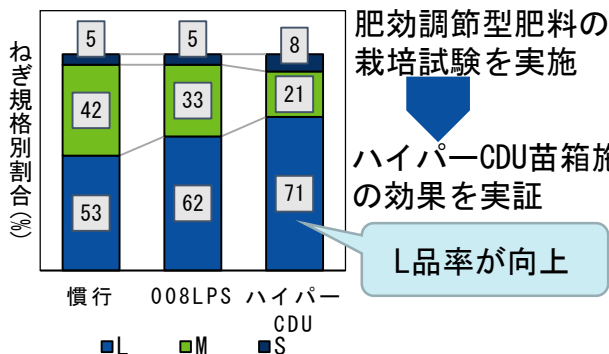


ハエ類防除技術習得支援

- ・ 殺虫剤体系処理の推進

育苗床	定植ほ場	
	定植時	定植後 (1～3週間後)
育苗期後半～定植前	ダイアジノン粒剤 5 (作条土壤混和)	フォース粒剤 (株元散布)
ジュリボフロアブル (苗箱灌注)	フォース粒剤 (作条土壤混和)	ダントツ粒剤 (株元散布)

初期生育促進技術の検討



初期生育向上技術習得支援

- ・ ハイパーCDU苗箱施用の普及

活動の成果

作業計画の組み立て支援

CP育苗導入により、定植作業を省力化

生じた時間を有効活用

J農家の場合

R2-R4比

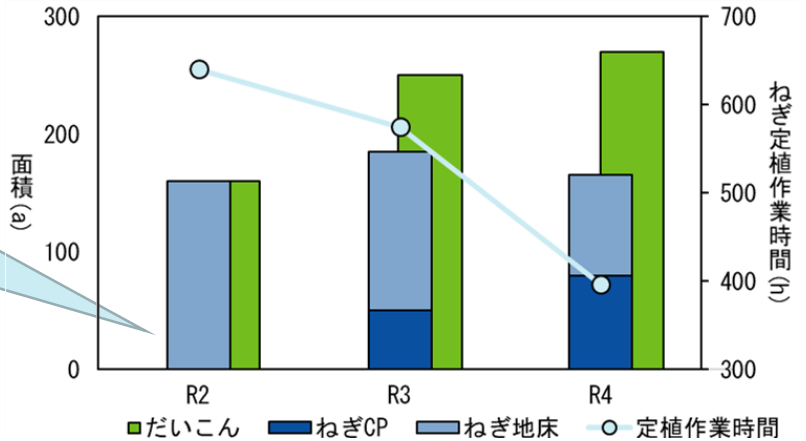
ねぎ面積+3%

定植作業時間

だいこん面積 +68%

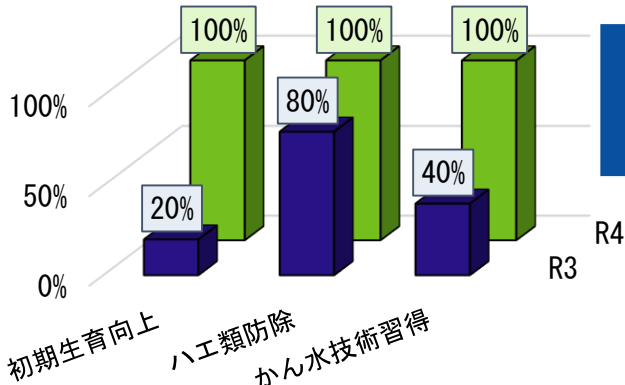
ねぎ定植
省力化

だいこん
面積拡大



栽培技術習得の支援

取組農業者全員が育苗技術を習得



取組農業者全員が健苗目標を達成 (R4)

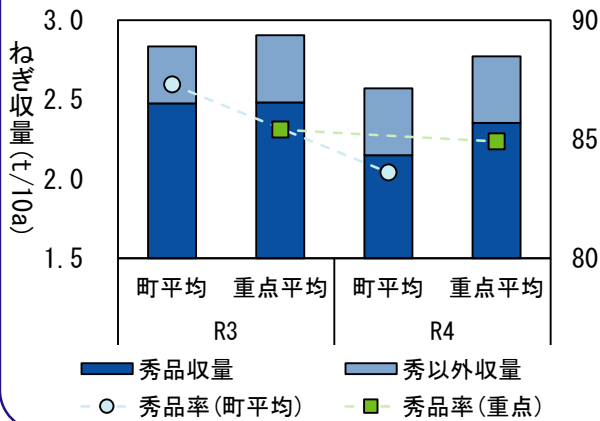
	苗立率 (%)	葉鞘径 (mm)	斉一性 (変動係数)
目標	95%以上	3mm以上	0.2以内
取組農業者 平均値	95.9	3.3	0.13

「育苗技術の習得」
達成率100%
5戸/5戸

収量・品質の向上

健苗育成により

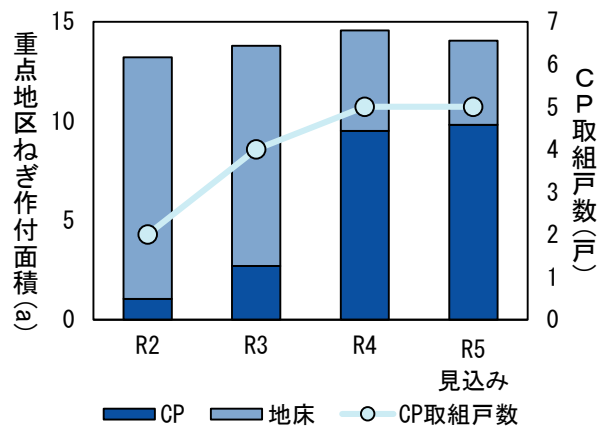
天候不順だったR4年も秀品率を確保



チェーンポット育苗導入の加速

CP育苗の取組戸数は5戸/7戸に、

導入面積は約7割に増加



今後の課題

収穫作業の平準化

定植作業の省力化により、一斉定植→一斉収穫となり、収穫作業の競合が発生

品種構成の見直し等により、収穫時期の分散を図る